

なんぷう

第 25 号 2004.11

関西支部事務局 〒530-6037 大阪市北区天満橋 1-8-30 O PA タワー36F アリコジャパン内

TEL 06-6882-7541 FAX 06-6357-3562

(HP) <http://www.tosa-ko.org/kansai/>

(e-mail) kansai@tosa-ko.org



ハルウララ

森 一公 (88回)

関西支部の皆さま、初めまして。高知新聞社で記者をしております森と申します。「なんぷう」編集担当の先輩とご縁がありまして、「ハルウララ」の話題で紙面をお借りすることになりました。とは言っても担当記者とは違いますし、一般のファンの皆さんの方が知識が豊富なのもかもしれません。

ことし3月22日、高知競馬場は史上最多の1万3千人のファンでスタンドが埋まりました。負けても負けても走り続けるハルウララと、日本を代表するスーパージョッキー、武豊さんとの「夢のコンビ」が実現したのです。

馬券売り場は長蛇の列。知人は「朝から並んだけど、買うのに七時間かかった」と話すほど。当然売り上げも記録づくめ。ウララが出走したレースだけで、過去最高

額の倍以上の五億円を越えました。

しかし周囲の盛り上がりとは裏腹に、レースのウララはほとんど見せ場もなく、106連敗を喫しました。レース後、武騎手はファンの歓声にこたえてウイニングランのように場内を一周。「彼女は与えられた仕事をまじめにこなしている。これだけのファンを呼べるのだから、名馬と言えますね」と話しました。

ウララの担当記者は、三重県の土佐高と呼ばれる名門(本人談)伊勢高校出身の石井記者。存廢の岐路に立つ高知競馬問題をずっと追いつけてきた社会部の同僚ですが、彼のお手伝いで、私もこの日の取材など何度かウララ連の取材に関わっていました。

武・ウララコンビ実現に先立つこと3カ月前のことです。彼から突然連絡があり、「すまんが明日、中央競馬の武豊に会いに行つての、ハルウララのこと、聞いちみちくりんかの。めし、おしるこ」。

だいたい、こんな感じで休日はずぶれます。土佐弁だか何だか怪

しげな方言の彼にまんまと乗せられ、武騎手がいる阪神競馬場へと向かいました。

しかしこのころ、武騎手は中央競馬の年間最多勝記録を更新中で、前人未到の200勝達成へまっしぐら。残りの開催日を考えると、記録達成は微妙な状況。さぞかしピリピリしているだろうそんな時期に水を差すような「連敗」を問えるのか? 大リーグ記録を年間最多安打記録に迫るイチローに「三振はいくつしましたか」と聞くほどの度胸がいるのでは? 不安は募るばかりです。

何だか厄病神になったような気分で、その日190勝目を上げた武騎手に恐る恐る、連敗しているハルウララなんですけど...」と質問。武騎手は「いやあ、そんなの、全然構わないです。騎乗依頼があれば、何とか勝たせてあげたいなあ」。細かなことにはこだわらない、うわさ通りのあっけらかんとした人物でした。

9月現在、高知競馬場では現地ロケが進んでいます。渡瀬恒彦、賀来千香子、竹中直人、ガッツ石

松といった俳優さんらが入れ替わり立ち代り来高。東京からのツアー客ら約1500人のエキストラを動員しての大掛かりなレースシーンの撮影もありました。

その高知ロケの真つ最中、大きな「事件」が起きました。エッセイストで有名な馬主さんが調教師さんに事前の相談なく、ウララを栃木県の競走馬訓練施設へ連れ去り、「休養」させてしまったのです。突然、ウララが高知からいなくなつたのですから、高知競馬の関係者にも、ファンにも寝耳に水の異常事態。馬主さんの一方的なながままに受け取られても仕方ないことです。

来年3月、武騎手との二度目のコンビで臨むレースが引退レースとなることは決まっています。その間の、ウララの出走スケジュールなどは現段階では全く分からなくなつてしまいました。

石井記者がハルウララの記事を最初に出したのは昨年6月13日付の高知新聞夕刊の特集面。大きな四段抜きの写真1枚と20

0行近い長編記事で1ページを取りきつての掲載でした。「1回ぐらい、勝つた」の見出しと厩務員さんに引かれるウララの写真は印象的でしたが、その時点では、武騎手に「名馬」と言わしめるほどの社会現象に広がることは、全く思いもよりませんでした。

当初はいかにも美談に乗つた一時的な流行という印象がどうしてもぬぐえませんが、存廢の岐路に立つ高知競馬に関わる人たちの暮らしや思いを発信しようという取材を重ねてきた石井記者にとっては、複雑な心境のままブームは広がっていききました。ウララ人氣をもつてしても、高知競馬が厳しい経営状況にあるのは変わらないのです。

「なぜ高知競馬をスポーツ欄に載せてくれないのか」とこだわるジョッキーがいるそうです。中央競馬の成績ならスポーツ面に出来るが、高知競馬は広告か、年に一度の大レースでも社会面での扱い。コンマ数秒の判断力を要求される高度な技術は、中央の騎手に全くひけをとりません。それなのに、というアスリート(競技者)

としての強いプライドを感じさせられます。

世の中に厳然としてある「中央」と「地方」の区分け。存廃の議論と、競技者の評価が別物なのは仕方ないかもしれませんが。しかし、いま、高知にある稀有な職人芸の世界、ハルウララのいる競馬場が消えてなくなるのは、あまりにはかなすぎる思いでいっぱいです。

同窓生訪問記

鎌田振吉(41回)

土佐高41回生の宮崎大学第二内科の坪内博仁先生をお訪ねしました。といっても、先生は京都大学付属病院の客員教授をなさっておられ、忙しい合間に無理をお願いして、伊丹空港でお会いしました。無理をお願いした理由は、先生は肝細胞増殖因子(HGF)の発見という世界的な業績を挙げられ、土佐校卒業生の中で最もノーベル賞に近い人と秘かに思っているからです。



「同級生とはいえ、全く憶えていませんねえ?」「そうですねえ」。先生と私は、同じ学年で共に医学部に進んだ訳ですが、

41回生の医学部進学者は36

0名中60名近く居たと思いますので、同じクラスでもなければ憶えるのは難しいですよね。坪内先生は、鹿児島大学医学部を昭和

47年に卒業され、第二内科に入局されました。「鹿児島に行かれたのは?」「当時、鹿児島大は二期校で、一期校に失敗したため、受験しました。浪人しようと思っていたのですが、桜島の雄大な景色を見て、鹿児島も悪くないなと思い始めました」。確かに、桜島は雄大で、降ってくる灰以外は良いところです。「土佐校から鹿児島大学の医学部に行ったのは、僕が最初ではないかと思っています」との事です。

「早速ですが、HGF発見のいきさつを聞かせて貰えませんか?」。内科医として地方の病院に勤務されていた時に、劇症肝炎といって急激に肝臓の機能が低下するため亡くなる肝炎の患者さんに多く出会われたそうですね。「当時は、劇症肝炎の患者さんが多かったですよ。それで、これは何とかしないといけないと思うようになり、大学に戻って、肝再生の研究を始めました」。肝臓という臓器は、手術で切り取っても、すぐに元の大きさにもどるほど、再生力の強い臓器なのです。」と

ころが、劇症肝炎の患者さんの肝臓は、全くと言ってよい程、再生しないんです。しかし、劇症肝炎の患者さんの血液中には、肝臓の再生を促す物質があるに違いないと思っただ訳です」。80年代後半になって、試験管の中で肝臓の細胞を生かす技術が開発され、劇症肝炎の患者さんの血液を試験管の中の肝臓の細胞に混ぜると、「驚くことに、どんどん細胞が増えだしたんですよ。」「劇症肝炎の患者さんの血液から、肝臓の再生に働く物質を取り出してみると、それがHGFだったという訳ですね。」「ラッキーだったのは、HGFがいろんな細胞にも働き得る夢の増殖因子だった事です」。鹿児島は肝炎の多い土地柄ですから、発見の動機は桜島だったのかも?」

94年に宮崎医科大学の教授になられ、2002年から京都大学付属病院の探索医療センターの客員教授を兼任されています。「京大でのお仕事は、HGFを薬として患者さんに使えるように

する事ですね?。「そうです。国立大学も独立行政法人となって採算性を問われるようになり、その一環としてベンチャー企業的な役割も果たさねばならないようになりました。」「実際に、患者さんに投与されているのですか?。「今は準備段階で、来年には投与を始める予定です」。劇症肝炎のみならず、肝硬変や肝臓移植後に肝臓の再生が十分でない患者さんなど、多くの成果が期待されている。

先生のご両親は、高知の一宮で健在だが、宮崎―高知間は不便な上に忙しくて、なかなか帰れなくて困っておられる由。高校時代は放送部で、生徒会活動にも関わり、「自由で楽しかった」との事です。お子さまは一男一女の双子で、既に二人とも医者になられて宮崎を離れておられ、鹿児島ご出身の奥様と二人暮らし。もともとろくに家に居らず、飛び回っている。趣味は仕事か旅行かというところだそうです。先生は京大以外にも、78、80年に西宮に住まわれて、大阪大学の蛋白質研究所

で研究されていた時期があり、関西支部ともご縁があります。今後、先生の益々のご活躍を期待したいと思います。

平成十六年度関西支部総会

平成16年度関西支部総会は、1月

24日(土) 京都ホテルオークラ

暁雲の間(4F)にて開催されました。池上武雄校長を始め、母校、本部各支部からのご来賓を含め百三十余名が集合しました。藤本紅美さん(68回)と棚倉悠平(72回)の司会のもと、校歌斉唱、川崎美栄子(42回)支部長挨拶に続いて、池上武雄校長(28回)の母校近況報告。ご来賓の池上武雄校長、小村彰先生(49回)、福留正仁先生、本部千頭裕様(58回)、北村恵美



子本副会長(47回)、安岡範悦

本部幹事長(39回)、久保地理介
東海支部支部長(33回)、荻野友
康香川支部幹事(44回)、山崎迪
子島支部事務局長(40回)、二
宮 潔(関東支部副幹事長(49回))
を代表して宮地貫一本部会長(28
回)のご挨拶。竹下和夫幹事長(42
回)による活動報告の後、事務局
長に原田和人氏(56回)、会計監



査に川村知之氏(58回)が承認され、会計報告の後、北村 巨元支部長(18回)の音頭で乾杯。

よさこい踊り子隊リンのヤングよさこいの披露に続き、今年も高知からかけつけて頂いた安岡信江さん(34回)のご指導で、よさこい踊りの輪が出来ました。あつという間の二時間半が過ぎ、応援歌斉唱、エール交歓。永野元玄

前支部長(29回)閉会挨拶でお開きになりました。

総会に先立って午後1時、三条大橋西に集合。新撰組と龍馬の史跡めぐりを行いました。京都龍馬会枚方支部長武山峰久氏(創元社刊「龍馬と新撰組の京都」著者)の案内で、京都龍馬会理事長長尾博章氏も同行して頂きました。三条大橋から、池田屋、龍馬の寓居であった酢屋、今となっては何の証拠も残っていない後藤象二郎の寓居跡、土佐稲荷神社、土佐藩邸跡、人斬り以蔵の刀傷が残る本間精一郎遭難地を経て龍馬・慎太郎の墓地まで、一時間あまりのツアーを満喫しました。

初めての京都開催でしたが、それなりに参加者も多く、盛会裡に終了しました。来年の総会は、大阪に戻って平成17年1月22日(土)ヒルトンホテルにて開催の予定です。奮って御参加下さい。

母校便り

学校長 池上武雄(28回)

初秋の候、関西支部同窓生の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、今年は殊の外台風の接近、上陸が頻繁で、各地で風雨の被害が報ぜられています。皆様のところは如何でしょうか。お見舞い申しあげます。

平素は母校の為に格別のご支援を賜わっておりますことを誠に有難く厚く御礼申しあげます。

さて、本年度の大学入試結果は、まずまずの成績をあげることが出来ました。現役生の合格率は70.6%(昨年比+5%)でした。

今年の特徴は、

一、私立大の合格者が増加しました。特に関西地区で難関校「関関同立」に156名が合格(昨年比+74名)しました。

二、国公立難関の東大、京大、阪大については、現役を中心に

健闘しました。東大7(現4)、京大12(現7)、阪大11(現7)でした。

また旧帝大7校に東工、一橋、神戸を加えた難関十大学でも44名が合格しました。

三、国公立大医学部医学科では、京大3(現2)を含めて26名(現

11)が、私立大医学部を加えると36名が合格し医学部に強い土佐の評判も定着しつつあります。

これも昨年9月東大総長佐々木毅先生に力強い激励のご講演をいただいたことが大きな力となったものと感謝申しあげておるところです。本年は11月19日に

京都大学総長尾池和夫先生(34回生)にご講演をお願いしており、今から生徒、教職員ともども期待を申しあげております。また尾池総長には、8月の京大オープンキャンパスに本校生徒が大

勢お伺いしました折りにご多用の中をさいてご面談、ご激励をいただき一同感激いたしております。有難うございました。

より活力ある文武両道の達成を目指す土佐校が段々と元氣になりつつあるように感じ、今後ともこの勢を持続向上させてゆきたいものと願っております。先生方も一段と氣力を充実して授業に、クラブ活動の指導に注力して下さいます。

ちなみに今年の高校県体への参加人員は、県下50校中本校が最多295名(男子207、女子88)

でした。団体の優勝は、5年振りの登山部男子だけでしたが、準優勝には男子ハンドボール、男子サッカー、女子テニスが入賞し、また個人では弓道男子、自転車競技2種目で優勝しました。インターハイでは、弓道男子個人で3位入賞、中学弓道全国大会では、男子個人準優勝、団体5位入賞を果たし、弓道部の活躍が光っております。

最後になりましたが、校舎の

改築についてご報告申しあげます。

来るべき南海大地震と津波に備えて、校舎の補強では必ずしも授業の場が確保し難い懸念から改築に踏み切った訳で、場所としては通学に便利で歴史のある現在地にと考えました。これまでに、設計を担当する日建設計グループと校内建築委員会ならびに作業部会各グループとで基本設計に関する検討を重ねております。本年度中には基本設計が固まり、そうなれば校舎の概要が皆様に図としてお示しできるものと考えております。その後実施設計に移り、工事着手は、体育授業やクラブ活動用地の確保等解決すべき課題から、早くて明年末頃になることが予想されます。工事期間は2年半位かかりそうですので、具体的スケジュールが明確になり次第ご報告させていただきます。

併行して宇田理事長を委員長として、同窓会、振興会、学校からの委員による「校舎建築等募金委員会」も本年6月に発足

し、募金活動の具体案づくりの検討も始まりました。

校舎の建築には50億円、新グラウンドの造成には、3億円、計53

億円の総費用を予定しており、同窓会を中心として募金活動のシユミレーションを、振興会を中心としては資金返済計画のシユミレーションを、更に本校同窓生の建築関係専門家によるアドバイザーチームの結成など、校舎建築等募金委員会の下部組織として動き始めたところで、同窓会、振興会、学校が三位一体となつて力を合わせ、この校舎改築の大事業を立派なものとしげ創立百周年を迎える土佐中・高等学校の発展を盤石のものといいたたく、ひとえに皆々様のご支援ご協力をお願いいたします。

まだまだ残暑も台風も続くものと思われませんが、同窓生の皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げ近況報告とさせていただきます。

本部便り

副幹事長 西山彰一(48回)

暑さも峠を越えた土曜日の午後、高知市から西に車を1時間ほど走らせ、中土佐町久礼の大正町市場に出かけました。夏の疲れを



癒してくれるおいしい食べ物が見山並んでおり、思わずあれもこれもと買ってしまいます。最近はお観光バスも止まり始め、全国にこ

年が明けて、1月31日学年幹事

会が開催されました。宮地貫一

(21回)支部長が任期満了で退任

して、新しい支部長に泉谷良彦

(29回)先輩が推薦されました。

総会での正式就任後、着々と支部長の仕事をこなしてらっしゃいます。最初は、「総会で承認されないこともあるから。」などと謙遜していましたが、最近はずっかりと支部長の顔になって来たような気が致します。温かい目で同窓会を見守ってくださる支部長の下、事務局としても微力ながら一生懸命やろうと決意しておりますので、どうぞ新しい関東支部もよろしくお願い致します。

総会・懇親会は、5月30日に行

われました。講師に尾池和夫(34

回)京都大学総長をお迎えし、

「2030年―40年南海地震に備える」の演題で講演いただき

きました。校舎建替えの計画進行中の折柄、校長先生を始め、皆さ

ま熱心に耳を傾けられました。

私も東海地震や火山噴火などは

身近な問題ですので、地震学者で

ある総長のお話は大変興味深く

拝聴致しました。総会・懇親会では、高知の現役アナウンサー武内

有子(64回)さんに司会を勤めて

いただきました。懇親会では、福

留史紘(74回)さん率いる華麗な

カルテットの弦楽演奏があり

ました。今年は、2004年にちなみ

末尾4の回生の方々が世話

役となり企画・運営を担当し、同

級生のゲストを遠くからお呼び

することができました。その他、

池上校長先生らによる模範試合

に続くはし拳大会など、盛りだく

さんの内容でした。79回生から8

回生まで300名弱の同窓生が

集い、本当に楽しい一夜でした。

年毎に深まる世代間交流と本部

支部間交流のすばらしさを感じ

ます。

8月の本部総会はホームカミ

ングデーという新しい試みが大

成功だったと聞いております。現

在関東支部では、来年の総会に向

けての企画等を進めているとこ

ろです。また、年末に発行する筆

山37号の編集会議への召集が委

員にかかり、発行へ向けて始動し

ました。

最後になりましたが、関西支部

の皆さまが、お体を大切にされ、

お元気で過ごしていただけます

ようごころからお祈り致します

て、関東支部だよりとさせていただきます。

だきます。

東海支部だより

事務局長 神宮美恵子(44回)

関西支部の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。

名古屋は今、中日ドラゴンズ優

勝の可能性が大きくなってきて

ボルテジはあがりつぱなして

す。その熱に浮かされたわけでは

ないでしょうが、先日は突然の地

震で驚かされました。デパートの

防災用品売場は品切れ続出とい

う報道もされました。関東支部総

会で34回生の尾池先輩(京大総

長)が講演されておりましたが、

近い将来必ず起きるといわれて

いる東海、東南海地震に対して

「備えあれば憂いなし」の言葉を

かみしめている今日この頃です。

また東海地区では10月まで浜名

湖花博が開催されていますが、来

年早々に中部国際空港(セントレ

ア)の開港、続いて愛・地球博(愛

知万博)が開催されるなど大きな

イベントが目白押しです。名古屋

近辺も大いに様変わりして景気

も上向くことと期待しております。

さて、東海支部では5月22日

(土)に名古屋駅そばのホテル・

キャッスルプラザで平成16年の

総会を開催いたしました。当日は

池上校長先生はじめ同窓会本部、

支部より多くの皆様においでい

ただいて盛大な会を催すことが

できました。関西支部からも甫木

幹事にご出席いただきありがた

うございました。池上校長先生か

らは、健闘した大学入試結果や新校舎建設の準備状況等の報告をいただき、出席者一同力強く感じました。また土佐高校、本部、関東支部、東海支部のホームページにご尽力いただいている関東支部の筒井常任幹事より興味深いホームページの実演がありました。

また後段の懇親会では昨年に引き続き、同じホテルで開かれていた高知商業の同窓会より柳井校長先生においでいただき、池上校長先生とともに野球での健闘を誓い合いました。来年度も同じ時期に同じ会場で開催の予定をしております。

そして東海支部では今年役員交替があり、長年東海支部の発展にご尽力された竹原泰明幹事長(36回)と南毅一事務局長(37回)が退任され顧問に就かれました。

後任に村山文世さん(41回)が幹

事長に、天造豊彦さん(52回)が

副幹事長に、私、神宮美恵子(44

回)が事務局長として活動させて

いただくことになりました。口八丁手八丁の南事務局長の後任としては、はなはだ役不足という感否めませんが、同窓会行事に参加される方を少しでも増やしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

また東海支部ではこの度、南前事務局長の発案で「二水会」が発足いたしました。毎月第二水曜日に定期的に集まって飲みながら好きなことを喋りあって親睦を深めております。関西支部の皆様も名古屋にいらっしやることがあれば是非ご参加下さい。それと同窓生の皆様の中には同窓会ホームページをご覧になる方も多いと思いますが、東海支部のホームページを見られたら是非、村山編集長の日記「をクリックしてみ下さい。そうだ、そうだと思ったり、ついにやりとしたり、村山幹事長の生活が垣間見えたりなかなか楽しい日記です。

最後になりましたが、関西支部の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

香川支部だより

事務局長 武山正人(40回)

関西支部のみなさん、こんにちは。大阪も、今年の夏は暑かったです。四国の今年の夏は、暑さやら大雨やらで大変でした。四



国の中でも讃岐ではどついつこたくなく過ごしてきましたが、今年は本当に異常でした。7月の後半は30度を遙かに超える日照り続

きて、今年は水が無くなると早明浦ダムの貯水率が気になり始めた。たら、台風10号であつという間に満杯、徳島では被害がでるほどの大雨に。よきこい祭りが終わった。らまた大雨で、なんぼなれている高知でもびつくりするほどで、香川では滅多にない被害がでるほどでした。また、台風16号では高松市の中心街まで水浸しというおまけまで付きました。

今年の香川支部総会は、7月3日、例年の開催場所を変更して四国一ののっぽビル高松シンボルタワーで開催いたしました。このビルは、以前にも紹介しましたが、四国最大の再開発事業と言われた、サンポート高松再開発事業によりこの春(平成16年5月)に完成しました。皆さんが昔利用した宇高連絡船の棧橋のあつたあたりに建っています。ビルからは、瀬戸内海が一望できすばらしい景色を目の当たりに出来ます。当日は、母校からは浜田教頭先生はじめ同窓会本部、支部の役員の皆

様に出席をいただきました。貴支部からは、原田事務局長に出席いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。当日は、晴天にも恵まれます。美しい瀬戸の景色を眺めながら旧交を温めることが出来ました。

関西の景気はいかがでしょうか。新聞情報では回復基調が見え始めたようです。四国では大口の電力需要で見ると、前年実績を越えて確実に生産活動は上向しているとのことですが、業種による格差がありなかなか個人消費に結びつくような回復はみえない



いようです。明るいニュースとしては、一時休園していたレオマワールド（レジャーランド）が春から、宇多津にあるゴールドタワー（展望塔）が夏から営業を再開しました。予想通りのすべり出しのよう、ひとまず安心というところ

です。四国の各県とも高齢化が進み人口も確実に減ってきています。四県ともに観光立県を目指している。いろいろ知恵を絞っています。これらが観光人口増加や景気回復の引き金になってほしいものです。

今年の夏の甲子園は、本当にすばらしかったですね。あれが、土佐高だつたらどんなに暑い夏になっていたか。来年はアルプスタンドで皆さんに会える、そう予想しながら、来年の奮起に期待したいものです。

広島支部だより

事務局長 山崎迪子（40回）

関西支部の皆様、こんにちわ。今年、厳しい暑さと台風が多い

夏でしたが、いかがお過ごしでしたでしょうか？体調を崩された方は回復なさいましたでしょうか？

広島では、皆様ご存じの様に台風18号により安芸の宮島・厳島神社では国宝の「左楽房」が倒壊する等大変な被害を受け、完全な修復には丸2年かかるかもしれないと言われております。でも台風の翌日には、作務衣で復旧作業をしていた神職が正装の狩衣に着替え、結婚式を執り行ったそうです。今は少し淋しい厳島神社ですが、回廊の復旧を最優先に進める」との事ですので、11月下旬の紅葉の頃には、美しさを取り戻しつつある姿が見られることと思

います。また食欲の秋を控え広島では、カキいけどが台風の影響を受け大量に流されたり、カキがいかだから落下したりしたため、今年のカキの収穫量が心配されています。残ったカキの収穫を遅らせることによりカキが大きくなるそうです。好きかな方には価格と共

に気になる話だと思われれます。でも被害のほとんどなかった地域もあるとか、英語でRのつく月が食べ頃のカキです。これからの広島カキを楽しみに待っていて下さ。

食べ物の話ついでに、広島の街には沢山の「やまもも」の木があり、平和公園にも植わっています。ほとんど食べられることはありません。我々支部の面々は支部長の調査のもと2年連続、やまもも「ツアー」を極く少数のメンバーで行っております。場所は極秘！取っても大丈夫な場所！まさか平和公園では

ありません。高知の「やまもも」の味にはかきませんし、実が小さいものが多く、それがいささか残念ですが、真正正銘のとりたて「やまもも」です。来年のツアーにも今から期待が集まっているところ

です。さて広島支部では今年の支部総会を11月6日に予定しております。講師は関東支部から幸徳正夫氏（37回）、演題は「笑門来福

(言葉は力) となっております。終了後は「梅太郎」かいつものカラオケルームでのおしゃべりタイム。広島支部総会は夜遅く迄続きます。翌日には幸徳氏のご希望の場所へのツアーを予定しておりますので、ご出席の方は体力を付け気合いを入れて最後までつきあい下さい。11月の広島では瀬戸内の島々でとれる「みかん」もおいしい季節で年内が食べ頃です。食べ物の話を続けていると、おながが空いて広島支部では只今ダイエットの嵐が吹き荒れておりますが、ダイエットが気になるものの食べる事の大好きな皆

様、食欲の秋まつただ中の広島へのおいでをお待ち致しております。

会員便り

近畿地区の高知県人会のご紹介

中澤卓史(45回生)

近畿地区には、高知県人会が別表のとおり14団体あり、それぞれ

に土佐弁飛び交う懇親会を開催するほか、ゴルフ大会やハイキングあるいは龍馬・慎太郎の墓前祭などを行っている県人会もあります。

また、これらの県人会を連合した「高知県人会近畿連合会」(会長：淀川製鋼所の鈴木鐸志社長)を組織し、毎年秋(今年は10月17

日)には橋本知事や各地域の市町村長も参加し、彩りを添えて盛大に開催されています。

* 県人会への入会や詳細に関しては、各県人会事務局または高知県人会近畿連合会事務局(高知県大阪事務所内) 06 6244

4351)までお問い合わせください。

冬ソナツアー

鎌田振吉(41回生)

ソウルでの学会に参加したのを機に冬ソナツアーに行ってみました。学会発表は初日の午前中に終わったので、昼からソウル市内の撮影現場巡り。ユジンとサンヒヨクが行こうとした映画館、ミニヨンの事務所のマルシアン、高校チユンサンとユジンが散歩の途中で立寄った教会。ここで歩き疲

県名	事務局	TEL FAX
大阪高知県会	〒541-0054 大阪市中央区南船場4-1-1 株式会社近畿通商社内	TEL.06-6245-1112 FAX.06-6282-0541
京都高知県会	〒600-8844 京都市下京区朱雀内1-17番地 岡崎電工株式会社内	TEL.075-314-4156 FAX.075-314-4156
神戸高知県会	〒653-0876 神戸市長田区山崎町2-11-32 遼寿ビルディング内	TEL.078-612-5533 FAX.078-612-5535
近畿高知県会	〒661-0863 近畿東園田13-2-2	TEL.06-6492-8870 FAX.06-6492-8870
北河内高知県会	〒572-0802 寝屋川市大芥1-242番地 中1-804	TEL.072-877-8823 FAX.072-876-0113
北摂高知県会	〒330-0053 大阪府北摂地区 おんきん事務所内	TEL.06-6312-4738 FAX.06-6312-6206
城東高知県会	〒337-0003 大阪府東区鶴野1-11-19 おんきん事務所内	TEL.06-6972-0373 FAX.06-6972-0578
旭高知県会	〒335-0002 大阪府旭区大宮1-11-3 日林管工業株式会社内	TEL.06-6952-0574 FAX.06-6955-2140
西大阪高知県会	〒552-0011 大阪府港区南船場3-10-21 武智堂製薬株式会社内	TEL.06-6582-7752 FAX.06-6582-7978
東大阪高知県会	〒577-0801 東大阪市川阪丁4-8B12	TEL.06-6788-1573 FAX.06-6788-1573
堺和泉高知県会	〒593-8328 堺市島田4-222-2 北園田地603	TEL.072-263-3055 FAX.072-263-3055
茨木高槻摂津高知県会	〒567-0873 茨木市川1-19-135 日之出通商株式会社内	TEL.0726-27-1266 FAX.0726-27-1222
関西高知県経済クラブ	〒556-0021 大阪市東区船場2-6-16 高嶺ビル2F	TEL.06-6568-3633 FAX.06-6568-3633
関西青高会	〒556-0021 大阪市東区船場2-6-16 高嶺ビル2F	TEL.06-4392-5720 FAX.06-4392-5720
高知県会近畿連合会	〒541-0053 大阪市中央区船場2-6-8 高知県会事務所内	TEL.06-6244-4351 FAX.06-6244-7933

れたので、チュンサンとユジンが最後に会ったラウンジに行きケーキセットを食べたのは良いのですが、もつ夕食の時間になってしまいました。そこで、腹ごなしに同じビルにある、ミニヨンがよく行っていたOバーに行つて食前酒を頂いたのですが、これが大正解。ちょっと味わえない雰囲気を楽しみました。そこで、二匹目のドジョウを狙つて、ちよくちよく出てくるAXISバーに行きました。雰囲気はOバーに負けませんが、ユジンとサンヒョクが座っていた席に座つてそれなりに楽しめました。ソウル市内の半日のバスツアーもありましたが、自分の足で行くのも一興。バーやレストランは日本より随分安く好印象でした。地下鉄に乗ること7回足が棒になりましたが、それなりの成果はありました。

一日おいて、ナムサム・チュン・チョン・ツアーへ。総勢9名。勿論、男性は私一人。30代の女性3人と50代の4人組。一人だけユジン・ファンが居ましたが、他は皆

ペヨンジュ・ファン。インターネットで申し込んだおかげで、他のメンバーより千円安い69Kでした。バスには冬ソナのCDが流れ、人数が揃つと、ビデオが放映されます。韓国版で、音声はありませんが（音は冬ソナの音楽）、日本版にない部分を探しながら見入つてしまいました。が、車窓の



景色もなかなかのもでした。そうこうしているとなムサムに到着。いろいろありましたが、メタセコイアの並木道が圧巻。ドラマを知らない人でも、十分楽し

めます。チュンチョンでは、昼食に名物・タツカルビと焼きごはんを頂き（料金込み）、チュンチョン高校の堀、チュンサンとユジンが最初に出会つた湖沿いの道などを見て、最後にチュンドに行きました。

結論として、撮影に使われた場所だけあつて、美しい場所や雰囲気のあるスポットが多く、学会で連れていって貰つた名所を巡るツアーより絶対オススメでした。

土佐の酒

酒ならなんじゃちかまん人が多いとは思いますが、今号より、郷里の酒、どちらかというところ有名でない酒を紹介したいと思ひます。

幡多の「無手無冠」酒造の「一番汲み」と栗焼酎の「ダダ火振り」。この栗焼酎はうまいけれど、最近では売れすぎるのか栗が足りないのか、生産が間に合わないそう、なかなか手にはいらんそうです。検索は「ダダ火振り」か「無手無冠」で。

余り有名じゃないが、香美郡赤岡・高木酒造の「豊の梅」。濁り酒で、丁度今の季節に作られ、人気は高い。検索も上記で。

関西支部より

平成16年度活動報告

1月10日 第1回幹事会開催。総会について最終打ち合わせ。

1月24日 関西支部総会ならびに本部・支部連絡協議会を開催。

2月21日 第2回幹事会開催。次回関西支部総会の日時・場所を協議。

5月22日 東海支部総会（於ホテルキャッスルプラザ）に南木義典幹事（54回）が出席。

5月30日 関東支部総会（於国立オリンピック記念青少年総合センター）に山下成子幹事が出席。

6月29日第3回幹事会開催。

「なんぷう」編集会議(第1回)
7月3日香川支部総会(於高松
シンボルタワー)に原田和人事務
局長が出席。

8月14日 本都同窓会総会(於母
校)に川崎美栄子支部長、山下成
子幹事、原田和人事務局長が出席。

平成16年度会費振り込みのお
願い
一口二千円で何口でも結構で
す。同封の振替用紙でお振り込み
下さるようお願い申し上げます。

平成17年度関西支部総会、懇親
会のご案内
2005年1月22日(土)ヒル
トン大阪にて午後5時から開催
します。奮ってご参加下さい。

『二木会』開催のお知らせ
来年より毎月第二木曜日夕方
〇〇〇〇に集つて会を開催の予定です。

自由参加。現在場所は物色中です。
お問合せは事務局(原田)まで。

次号(25号)「なんぷう」・関西

支部ホームページの原稿募集!
近況報告、趣味の話し、食い物の
話し、高知の話し、同窓会やメー
リングリストの案内など、内容を
問いません。ホームページ
(<http://www.tosako.org/kansai/>)、メールアドレス
(kansai@tosako.org)または事
務局にお寄せ下さい。

編集後記

今年ももう、こんな時期になっ
てしまいました。今年は、なんと
言ってもオリンピック。連日の日
本選手団の活躍に睡眠を忘れて
応援に力が入った事でしょう。夏
の高校野球も連日、熱戦が続きま
したが、最後はオリンピックに喰
われてしまいました。高校野球と
言えば、現時点では未だ来春の選
抜出場に望みを繋いでいます。四
国大会での母校の健闘に期待し
ましょう。プロ野球もイチローの

新記録達成は見事でしたが、球界
再編問題やらオリンピックやら
で盛り上がりに欠けました。中
日・西部ファン、こんな年に優勝
できておめでと。

春先は新撰組ブームが予感さ
れました。関西支部総会でも初め
ての京都開催を期して、新撰組と
龍馬ツアーを企画したところ、こ
好評を頂きありがとうございます
でした。しかし、その後は新撰組も
鳥インフルエンザに足元を掬わ
れ、あえなく冬ソナに完敗。あの
オリンピックでさえ、放送開始時
間の遅延にソナティアンから抗
議電話殺到という、恐るべし冬ソ
ナ。という訳で、私もたまたま、
ソウルで学会があったので、冬ソ
ナツアーに行ってきました。予想
がつかないと言えば、突然のハル
ウララ人気。結局、本号の巻頭を
飾って貰いました。しかし、森さ
んの話を読んでもさっぱり解ら
ない(失礼)。三振王に人気があ
る(?)みたいなものでしょうか
ねえ。

土佐校が甲子園に出るのが早
いか、女子校になるのが早いかと
いうギャグがありますが、ノーベ

ル賞が出るのが早いか、オリンピ
ックの金メダリストが出るのが
早いかという事で、オリンピック
の年を締めくくらせて頂きます。

(編集長 鎌田振吉(41回))

大阪大学大学院医学系研究科
小児外科学

助教授 鎌田振吉

〒565-0871 吹田市山田丘 2-2

TEL : 06-6879-3753

FAX : 06-6879-3759

E-mail

kamata@pedsurg.med.osaka-u.ac.jp